街づくり公開討論会、基調講演レジメ

平成 22 年 7 月 27 日

講師：蓑原　敬氏

「現経済状況下での街づくりのあり方」

―福山は次の時代のゲームに生き残れるか？―

1．福山は 20 世紀、工業化の時代に勝ち残った。

○日本の工業化の時代、後発国として工業の世界化の時代を先導した。その成功に支えられ、インフラの整備が進んだ。

一方で、農業や林業は相対的に弱体化したが、工業化に支えられ市民の生活水準は平均的に高くなり、社会的な緊張が生まれなかった。

○この背景には、所得水準が低い開発途上国としての日本があり、人口が増大し、若年労働力に恵まれ、そして国際競争に勝てる優れた労働力があった。

都市化による自然環境の悪化には、環境行政、農林業、水産業の保護、比較的計画的なインフラ整備で対抗してきた。

○その結果、世界に冠たる工業製品を生み出し、後発国としては異例に化石燃料時代に即応できるインフラ整備に成功した。

福山は、日本のこの時代のモデルの一つだった。

2．福山は 21 世紀、脱工業化、低炭素産業時代に生き残れるか？

○日本はもはや後発国ではなく、安い優秀な労働力で工業化が進む世界のなかにはいない。

○欧米先進国のように脱工業化社会に進んではいないし、新しい低炭素産業社会のリーダーにもなれていない。

○人口は高齢化し、人口減、世帯減は避けられない現実になっている。

○自動車の普及で生活圏が広がり、森も田畑も生活圏の一部に組み入れられ、全ての地域で同じような生活水準が求められている。しかし、高齢化社会、低炭素化社会のなかで、このような拡散した生活が営め なくなっている。そして、孫子の代まで伝えられる街並みは残されていない。

次の時代のゲームは、明らかに、今までとは違う。その中で、福山は、今までの成果を土台にして生き残れるのか？

福山には、工業化の時代に勝ち取った公共的なインフラと、まだ残っている豊富な自然資源、それに何より２０世紀を勝ち抜いた人的な資源がある。これを生かして、次の時代のゲームに望めるはずだ。

３．次の時代はゲームが違う

○20 世紀は工業の時代、競争の時代だった。

21 世紀は、脱工業化、新しい低炭素産業の時代で、個人の創造的な知恵と感性、少子高齢化を支える、思いやりとゆとりがある地域の人間関係が頼りになる社会だ。

それを育むのは豊かな生活環境だ。

街づくりの軸を産業から生活環境へと移さなければならない。

○豊かな生活環境は、トップダウンのインフラ整備、個人や企業の孤立的な努力の集積では達成できない。個人や企業の連携、それを触媒する自治体の努力が欠かせない。

ＰＰＰ（市民、企業、自治体の連携）が鍵だ。

○次の時代のゲームのための資源は、自然的資源、歴史文化的な資源、公共インフラ、社会的な協働体制だ。

福山は、里山、田園風景、海岸、河川など自然風景、歴史的景観を生かして個性ある街が創れるか？

今ある公共インフラ・ストックを活用して、少子高齢化次代でも暮らしやすい生活基盤が創れるか？

工業化時代に培った優れた人材、特に、定年後の人たちを動員して、協働の体制をどう創り、安全で安心できる福祉共同社会をどう創れるか？

それが次の時代のゲームだ。

4．ではどうすれば良いのか？

○豊かな生活環境とは何だろう？誰がそれを考え、誰が実現するのか？

そのための合意の形成、あるいは総意の醸成を誰がやるのか？

○何処にも当てはまるモデルなどない。

地区地区で、自分達が気に入る生活環境を築いていく以外に方法は無い。

自分達でそれを考える仕組みが要る。

○その時、地区地区で、どんな空間を造るかという話は、老人、女性、子供の福祉、医療、雇用、生き甲斐、産業、教育、文化などの全ての領域と関連して来る。

幅広い気配りが無いと豊かな生活環境は保証されない。

新しいＰＰＰ（自治体、企業、市民提携）の仕組みが要る。

今までは、工業製品の製品別産業形態を伸ばすことが生活の豊かさを保証する基盤だと考えられてきた。

今、求められるのは、地区地区を基盤とする手作りの、サービス産業形態を伸ばし、社会的協働体制を通して街づくり実現していくことだ。それによって、生活環境への軸足の移動、地区の産業化を通した街の活性化が実現できる。

福山はそのような挑戦、新しいゲームに挑めるか？

5．一つの実践的提案

○次代には、創造的な人々の居場所になる街並みが要る。

中心部の地区で、歩いて楽しい街並みを産み出す地区産業化プロジェクトの発掘。

何処で、どんな街をつくり、維持運営するのか。

（地区に熱心な担い手がいることが条件。福山の産業界が全体としてこのプロジェクトを支える体制 ができるのが条件）

○シャレット（皆で具体的な街のイメージを考えながら合意形成する仕組み）による社会実験。その地区の賑わいの創造について、商業、工業、農林業など様々な産業分野の介入の可能性の検討

その可能性を実現する空間像を、みんなの前で、一緒に画きながらまとめる専門家投入して、オープンに 議論して街並みの空間像と事業化のプログラムを同時に議論する。

市役所の担当者も、立場を離れた専門家として参加。（発言は公式のものでなく、専門家の参考意見とする）

○この社会実験を実施するための組織化作業；二層が必要。

全体の舵取りをする、戦略会議

地区で実践的にプロジェクトを立ち上げる現場会議